

平成 25 年第 16 回

# 札幌市教育委員会会議録

※ 非公開に係る議案を除く

平成25年第16回教育委員会会議

1 日 時 平成25年 8 月27日（火） 13時30分～14時13分

2 場 所 S T V北 2 条ビル 4 階 教育委員会会議室

3 出席者

委員長	山 中	善 夫
委員	臼 井	博
委員	池 田	光 司
委員	池 田	官 司
委員	阿 部	夕 子
委員	町 田	隆 敏
教育次長	西 村	喜 憲
生涯学習部長	梅 津	康 弘
庶務係員	松 本	淳 吾
企画調整担当課長	平 井	義 幸
調査企画担当係長	信 太	希 久子
調査企画担当係員	松 岡	伸
学校教育部長	金 山	正 彦
指導担当部長	引 地	秀 美
指導担当係長	工 藤	真 嗣
総務課長	杉 村	亮
庶務係長	井 上	達 雄
書記	市 川	渉

4 傍聴者 2 名

5 議 題

議案第 1 号 平成25年度教育委員会事務の点検・評価報告書について  
議案第 2 号 札幌市特別職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する  
条例案に係る意見について

**【開 会】**

○山中委員長 これより、平成25年第16回教育委員会会議を開会いたします。

会議録の署名は、臼井博委員と阿部夕子委員をお願いいたします。

本日の議案第2号につきましては、議会の議案についての市長への意見の申し出に関することでございますので、教育委員会会議規則第14条第4号の規定により、公開しないこととしたいと存じますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○山中委員長 それでは、本日の議案第2号につきましては、公開しないことといたします。

## 【議 事】

### ◎議案第 1 号 平成25年度教育委員会事務の点検・評価報告書について

○山中委員長 では、議案第 1 号について、事務局からご説明をお願いいたします。

○生涯学習部長 生涯学習部長の梅津でございます。

私から議案第 1 号の教育委員会事務の点検・評価報告書について、ご説明いたします。

教育委員会事務の点検・評価につきましては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 27 条第 1 項において、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない」と定められております。

本議案は、この法律の規定に基づき、平成 24 年度の事務事業につきまして、その点検・評価を行い、結果をまとめたものを平成 25 年度の報告書としてよろしいかお伺いするものでございます。

なお、本日の議案に添付してございます報告書案につきましては、事前を送付をさせていただいたところでございますけれども、その際の通知文でお伝えをいたしましたとおおり、前回の 7 月 23 日の際にこの場でご協議をいただいたものから、43 ページから 46 ページにおきまして、「Ⅲ 学識経験者の意見」といたしまして、北海道教育大学教職大学院の大久保院長及び札幌国際大学の佐久間教授からのご意見を加えたことです。もう一つは、前回の協議におきまして、各委員からのご意見を踏まえまして、報告書の体裁の全体的な統一を図るなどの修正を加えたものとなっております。この報告書は本日ご決定をいただければ、法の規定によりこの後、議会に提出するとともに、公表いたします。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○山中委員長 ありがとうございます。

基本的には、これまで数回の会議の中でいろいろと議論をいただいて、このような形になっておりますが、今ご説明もありましたとおおり、新たに学識経験者の意見が加わり、また、体裁を整えたということです。こういったことを踏まえて、さらにご質問、ご意見はございますでしょうか。

○池田（光）委員 学識経験者の意見の中で、いじめ関係のことが非常に多かったなと感じております。最後に、一層充実されることを期待するというような表現が多いのですけれども、もっと具体的に表現したものはなかったのですし

ようか。補足的なことがもっとあったのか、お聞きしたいと思いました。

**○生涯学習部長** ご意見を受けてということでは、現在やっているものを充実することで対応できるものと、今後また検討が必要になってくるものがあるかと思えます。今、指導担当のほうで、特にお話しできるものは何かございますか。

**○指導担当部長** 新年度は、新たにやっているところがございますので、この時点ではこういうことでよろしいと思えます。

**○山中委員長** 今回の事務の点検・評価で、平成25年度で行われていることについては、今後の方向性として触れている部分もあったと思えますが、今回の点検評価の対象としてそこまでは言っていないということかと思えます。

**○生涯学習部長** 中身によっては、例えば、43ページに大久保教授の一番最後の部分で相談支援パートナーの話や、教育支援センターの取組の一層の充実という意味につきましては、ある程度計画的に人員の増員を図ろうとしている部分もありますし、教育支援センターにつきましては、今、白石区に1カ所開設いたしましたけれども、来年度に向けて、2カ所目も開設するという計画を持ちながらやっておりますので、そういう具体的なものもございますけれども、全てにわたって、今ここでこれについてはこうということまでは難しいかと思えます。それはまた来年度以降の中でいろいろな場面でご報告をさせていただきたいと思えます。

**○池田（官）委員** 学識経験者の意見で、特に佐久間先生のご意見を拝見しますと、1番の「豊かな心の育成」の部分、あるいは、3番の「市立高等学校における新たな制度の導入」の中で、両方においてアウトカムの検証とか、評価の視点ということが述べられていると思えます。非常に重要なご指摘をいただいたと思えます。

実施されている事業について、より妥当な評価や、アウトカムを検証していくということを今後お願いできればと思えます。

**○生涯学習部長** 佐久間教授からは、各項目、それぞれ四つの評価項目を含めて結構厳しいご意見もいただいておりますので、今後、十分に検討してまいりたいと思っております。

○**臼井委員** 私も、佐久間先生のことに対して、表現上でわかりにくいところが3点ほどあるので、もし機会があればお聞きいただければと思います。

基本的には、今、池田（官）委員がおっしゃったようなことに私は全く同意見ですけれども、1番の「豊かな心の育成」というところで、自殺防止のことについて、「本施策における実施事業のアウトカムを検証する」ということで、現実的にアウトカムというのは何を指すのか、自殺の件数が増えたか減ったかということを出カムと言っているとしたら、単なる件数があったかどうかで簡単に言えることではないのです。このあたりのアウトカムの意味するところをもう少し具体的にお書きいただけるとわかりやすかったと思うということが第1点です。

それから、第2点目ですけれども、同じ45ページのところで文科省の調査で不登校児童の出現率がありまして、全国データでは小学校が0.33%、中学校が2.64%とあるのを、札幌市は0.34%ということで、0.01ポイント高く、中学校が3.00ポイントということで、これも0.36ポイント高いということで、いずれも札幌市のマイナスを書いているのです。確かに、数字を見るとそうですけれども、我々の統計的な数字の見方で、これが上回っているとは一般的には言いがたい数値と思われるので、このあたりはいかがかと思ひます。

第3点目は、市立高等学校における新たな制度の導入の3行目の真ん中ぐらゐのところですが、「評価判断に十分なデータを検証しているとは言い難い」とありますが、これは正直に言ひまして、表現上、非常にわかりにくいです。恐らく、おっしゃっていることは、評価を判断するために十分なデータがあるとは言い難いということだと思ひます。読んでいて、少し硬いなという表現が見られましたので、機会がありましたら、より正確におっしゃっていることの意味を理解するために、表現上の工夫をしていただきたいと思ひます。

○**山中委員長** 今のことと関連していえば、特に1点目と3点目については、この評価書が外に出るだけに、あるいは、佐久間先生にもう少しわかりやすく書いていただくということを考えてもいいのではないかという気がするのですが、どうでしょうか。

2点目は、統計の有意差をどう見るかという問題で、ある意味で評価的な問題でもあるから、そこについて、さらに書くということにはならないだろうと思ひます。その点、臼井委員であれば、1点目と3点目については、確かにわかりにくい、日本語としてというか、わかりやすくしていただけるといいかもしれません。その辺は、今から学識経験者の意見を修正するというのではなく、わかりにくいので、ちょっとわかりやすくしてほしいという要望もつけて、それで議会にかけられる場合も、あるいは、公表する場合にも多少の修正をさせて

いただく、それは考えてもよさそうに思いますが、いかがでしょうか。

○生涯学習部長 今まで、そういった例もありませんでしたので、意見を聴取する先生方からいただいたものをそのまま載せておりましたが、わかりにくさということであれば、意見を寄せていただいた先生にちょっとお話をし、これはどういう意味でこういう言葉をお使いになっているかということについて確認して、必要であれば修正を加えます。

○山中委員長 いずれにしても、臼井委員からご指摘があった点をお伝えいただく必要はあろうかと思えます。

○生涯学習部長 それは対応したいと思えます。結果については、また個々になるかもしれませんが、ご報告したいと思えます。

○山中委員長 よろしいですか。

○臼井委員 はい、ありがとうございます。

○池田（光）委員 もう一つよろしいですか。

46ページの下から5行目の自然体験活動プログラムの事業について「より多くの子どもたちが参加できるような機会の充実について検討すべきである」ということだったのですが、相当いろいろなプログラムを組んでいるような気がしたのです。この辺の実態としてはどうだったか、少し検証できる場所はあるのでしょうか。非常に少ないという表現をされていらっしゃると思えます。

○生涯学習部長 人数が少ないくだけりでしょうか。

○池田（光）委員 下から4行目にあるように、「より多くの子どもたちが参加できるような機会の拡充について検討すべきである」ということなので、ここは現状としてはどんな参加度というか、その仕組みはどんな形なのでしょうかということをお聞きしたいと思えました。

○調査企画担当係長 今のところについては、例えば、林間学校が小学校一、二年生を対象にしていれば、子どもと保護者と48組が対象の募集人数になっていて、それを実施しているのですけれども、佐久間先生がおっしゃっているのは、公のお金でやる以上、一部の子どもだけを対象にしているのか、もっ

と幅広い子どもたちに同じ機会を与えるべきではないかというようなお考えのもとのご意見で、一部の子どもだけに過ぎるのではないかということで、もう少し広げられないのかといった趣旨でお話をされていました。

○**山中委員長** 書き方として、小中学校、幼稚園の児童生徒が14万5,000人いるのではないか、そのうちのほんの1,000人くらいですか、本当にわずかしかな恩恵にあずかっていないのではないか、もっともっと増やしてもいいのではないかということなのでしょう。

○**池田（光）委員** 実態としては、余り参加したくないという意向ではないのですね。

○**調査企画担当係長** そういうことではないです。

○**山中委員長** 14万5,000人を母数にしたら非常に少ない限られた人数だということにはなるのでしょうかけれどもね。

○**町田委員** 林間学校をやるには、指導体制などの問題があります。

青少年山の家はやっていますし、ほかの学校でもやっていますが、そのキャパシティの問題や、何よりも指導者の育成という問題があります。これは、札幌などの場合は割合うまく地道にやっていきますけれども、それにしても、夏休みに14万5,000人の子どもを全員受けさせるとなると、学校の先生が総動員でやらなければいけない話になってしまいます。

○**山中委員長** 確かに、比率的には非常に少ないことは事実で、予算的、あるいは、その体制を組む上でどの程度まで拡大していけるか、その辺が一つの課題ではあるというご指摘ですね。

○**生涯学習部長** 現状として、全体の子どもの人数からすると、参加している分が余りにも小さいという部分は確かにあるのですが、ただ、「自然体験活動プログラムの開発、検証を目的とする事業ではない以上」とありますが、この林間学校の成果なりを、一般の学校教育の中に生かす方法がないかと、まさにここに書いてあるような自然体験活動プログラムを日常的な学校教育活動で何か活用できることにならないか、そういう方向に転換を図るということは考えていかなければならないと考えております。

現状では、佐久間先生がおっしゃった部分で、少しでも拡大はしようと思っ

ていますが、ここにも書いていますように、指導者の確保とか予算の問題もありまして、大きく拡大するというのは現状ではなかなか難しいということもあります。

○山中委員長 今、生涯学習部長が言われたように、事業そのものを拡大することは難しくても、その内容を各学校内などで生かし、どうやっていくかという形の一つの検討の方法ということで、今後に生かしていただくというようなことをお願いします。

○生涯学習部長 いずれにしましても、先ほどの3点と、今の池田（光）委員からのお話も趣旨としてこういうことでよろしいかということを含めまして、佐久間先生とお話をしてみたいと思っております。必要であれば、修正を加えたいと思います。

○山中委員長 ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○山中委員長 特になければ、今、一部わかりにくいといったところについて、学識経験者の意見を伺うということと、そのほかにもご指摘のあったことについて、そういった趣旨をそのままではないにしても行政のほうに生かしていただくことをお願いしながら、この議題としては、基本的にこの内容で、今申し上げたような修正点が若干あるかもしれないということは事務局にお任せしながら、事務の点検・評価の報告として決定して議会にかけるということでよろしゅうございますか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○山中委員長 では、そのようにさせていただきます。

それでは次に、議案第2号からは、公開しない議案となりますので、傍聴者の方は退席をお願いいたします。

以下 非公開